

小学校における取組「コミュニケーション能力の育成を通して」

西尾市立西尾小学校

1 はじめに

小学校のキャリア教育で、特に子供たちに身に付けさせたいものは「自己肯定感」であると考えている。それには「人」とのかかわりが、不可欠であろう。西尾小学校では、家庭で「しつけ」学校で「教え」地域で「育てる」を基本姿勢に、地域と共鳴しながら学校教育がなされている。

小学校でのキャリア教育は全教育活動を通して機能させることが可能である。日々の取組をキャリア教育の視点からとらえ直してみると決して特別な活動ではなく、キャリア発達にかかわる4領域・8能力は様々な場面ではぐくまれると言えよう。その中でも特に「人間関係形成能力」を付けさせたい。そのための手だてとして、「コミュニケーション能力の育成」と「自己肯定感の育て方」に重点を置いた。これらは子供たちが「ひと」とつながり、かかわることで培われ、はぐくまれる。子供たちを取り巻く「ひと」とは、家族・子供・町の人・教師である。キャリア教育を通して、子供たちが今の自分を知り、可能性のある自分を信じ、人とよりよくかかわりつながることで、未来に向けてなりたい自分を実現できるように願い、本実践を行った。

2 本校とキャリア教育

本校ではキャリア教育の目標として「小さな社会でしっかり学び、大きな社会でたくましく生きる」を掲げている。

(1) キャリア教育を支える4領域の能力

キャリア教育ではぐくむ4領域の能力を、本校では次のように、更に具体化している。

- ① 人間関係形成能力（コミュニケーション能力・自己肯定感・あいさつ・感謝・協力・信頼）
- ② 情報活用能力（働くことに興味関心をもつ・働くことの意義が分かる）
- ③ 将来設計能力（自分の役割を知る・夢や希望をもつ）
- ④ 意志決定能力（自分で考え自分で行動する・責任を持って行動する）

(2) キャリア教育における位置付け

子供を取り巻く「ひと」と「場所」については、次のように認識している。」

子供たち・・・自己と他者相互受容

教師・・・一人一人の課題に対応した支援

町の人・・・職業理解のための支援

町・・・小さな町づくり人・社会人としての実践の場

家族・・・生活上の多用な役割や意義及び関連等を理解し、自己の果たすべき役割などについて認識を深める場

(3) ねらい

ア コミュニケーション能力の育成

＝互いに考えを伝え合い、感情を理解し合う力 【人間理解】
【クラスの雰囲気づくり】

コミュニケーションタイムでコミュニケーション能力の土台づくり

イ 実体験を取り入れ、人とのかかわりの中から自己肯定感を高める。

ウ 総合的な学習・町学習でコミュニケーション能力を生かす。

今までの学習経験や生活経験のすべてを総合的に活用する場の設定

=問題解決のプロセスを重視する。

(4) 手だて

① 全学年を通してコミュニケーションタイムを設定し、コミュニケーション能力を付ける。

【電子カルテ「あゆみ」から見るコミュニケーションの力の育ち】

【コミュニケーション能力を付けるスキル】(資料1 巻末)

② 国語科・・・「話す・聴く」の単元実践でスキルを身に付ける。

【1年生「きいてきいてよんでよんで」】

生活科・・・五感を使った体験を大切に、主体性を引き出す。

【1年生「木は友だち・うっ木っホーランドをつくろう」】

③ 総合的な学習の時間(町学習)で話し合いの授業を取り入れ、問題解決能力を付ける

【5年生「ここがすごいぞ!職人さん」・仕事体験】

④ 家庭との連携・・・家族の大切な一人として自覚する「めざせ!スーパー1年生」カード

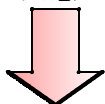
(5) 本校のキャリア教育にかかわる活動ステップ

愛着・・・身近な人や場所への愛着を深めつつ、町の中で・・・1年



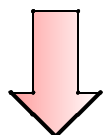
自分にはぐくまれているんだという情緒の安定、
安心感をもつ。

共感・・・自然や人の痛みや喜びを共感でき、自分と環境の・・・2年



かかわりを積極的に考えようとする。

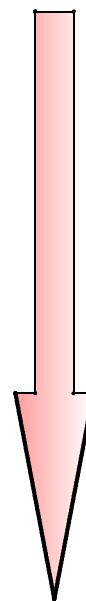
参加・・・何らかの環境や福祉の改善につながる具体的な行・・・3年・4年



為・行動に向けて情報を駆使しつつ、参加しよう
とする。

提案・・・自分の意思表示や提案・表現する力を高め、現実・・・5年・6年

の課題に前向きに対処していこうとする。



キャリア教育と関連性のある 総合的な学習の時間・生活科	職業的発達に かかわる諸能力	発達課題
1年生「木は友だち」	人間関係形成能力	【自分と他者を理解する力】 友達と仲良く遊び助け合う
2年生「見て!さわって!感じて!やぎのいのち」	人間関係形成能力	【自他の生命を大切にする】 ヤギの飼育・世話・出産
「聞いて西尾のむかしばなし」	情報活用能力	【社会で共に生きる力】 町の人に昔話を聞き、町に関心をもつ
3年生「大好き!この人!この町」	人間関係形成能力	【コミュニケーション能力】 町のすてきな人見付けをし、仲良くなる
	情報活用能力	【情報収集】 インタビューの仕方を学ぶ
4年生「聞いて!城 下町の水の声」	情報活用能力	【情報を集め活用する力】

	意志決定能力	水質調査・川マップづくり 【自らの課題を見付け解決する力】 川をきれいにするために自分たちでできることを考え実行する
5年生 「西尾の職人 見付けよう！キラリ輝く 心と技」	人間関係形成能力	【コミュニケーション能力】 あいさつ・職場体験事前交渉活動
	情報活用能力	【職業理解能力】 職場体験を通して働くことの大切さややりがいを知る
	将来設計能力	【計画実行能力】 職場体験計画を立てる
	意志決定能力	【選択能力】 自分の決めた職場体験活動を最後までやり抜く
6年生 「提案！21世紀の町づくり」	将来設計能力	【課題解決能力】 将来の夢や希望をもち実現に向けて努力しようとする。 【計画実行能力】 町改造の計画を提案する
特別支援「うさぎさんとなかよし」	人間関係形成能力	【自他の生命を大切にする】 うさぎの飼育・世話・出産

(6) 方法

ア 西尾の町と人材を生かす

- ① 町にかかわる対象として学区に住む「職人・働く人」を取り上げる。 【地域教材】
- ② スピーチで養ったコミュニケーション能力を町の人とのかかわり合いの中で生かし、伸ばす。
【コミュニケーション能力の活用と育成】
- ③ 聞き取りや見学などによる調査内容を、発表やポスターセッションなどを通して表現する。
【表現活動】

イ 主体的な学びを目指して

- ① 将来の職業生活や人間としての生き方に夢や希望がもてるよう、主体的な職業体験活動を取り入れる。 【職場体験】
- ② 町学習と各教科のそれぞれで身に付けた知識・思考や技能などを意図的に関連付ける。
【町学習と各教科との相互関連＝共振し合う学習活動】
- ③ 体験や調べ学習を中心とした個人追究と、思考を中心とした全体追究のプロセスを、単元に位置付ける。 【知の交流】
- ④ 個の学習状況に応じたアドバイスをする。また、学習カードへの朱書きを通して、子供自身が適切に判断し、主体的に活動できるように支援する。 【教師支援】
- ⑤ 時間を効果的に使い、深く追究する態度を養うために、夏季休業中に職場体験活動を設定する。
【追究活動における十分な場と時間の保障】

3 実践の実際

(1) コミュニケーション能力をはぐくむ実践

(資料1参照 巻末)

ア 目標

- ① 身の回りや社会にかかわる題材を見付けてスピーチをすることができる。

- ② スピーチの内容にかかわらせながら、自由な雰囲気、思いや体験を基にした意見交流をすることができる。

イ 西尾小学校のコミュニケーションタイムの特色

- ① 給食の後の15分を利用して実施する。
 ② 一人、若しくは、数人のスピーチと、その後の意見交流で構成する。
 ③ スピーチはクラス全体に話題を提供するという立場で話す。聞く側は、話すために聞くという聞き方をし、スピーチの内容にかかわらせて、積極的に意見交流をする。
 ④ 意見交流では、基本的に何を発言してもよいという姿勢で行う。

ウ コミュニケーションタイムで育てたい力

	内 容	技 能	
低 学 年	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りのものや出来事を話すことができる。 自分のしたこと、見たこと、聞いたことの体験を話すことができる。 	話 し 手	<ul style="list-style-type: none"> 「です」「ます」を使い、語尾まではっきり話す。 主語と述語を使って話す。 必要に応じて、身振りを加えたり、絵や写真を使って話す。
		聞 き 手	<ul style="list-style-type: none"> 話し手を見ながら聞く。 スピーチに対する感想を言う。
中 学 年	<ul style="list-style-type: none"> 自分のしたこと、見たこと、聞いたことの体験を詳しく話すことができる。 体験に、自分の思いや考えを加えながら話すことができる。 	話 し 手	<ul style="list-style-type: none"> 5W1Hを入れながら話す。(いつ・どこで・だれが・何を・どのように) スピーチメモを活用して話す。
		聞 き 手	<ul style="list-style-type: none"> うなずきながら聞く。 スピーチの内容と自分の体験を重ねながら聞く。 一番言いたいことは何か考えながら聞く。
高 学 年	<ul style="list-style-type: none"> 社会的な事象や事実に向け、自分の意見を入れながら話すことができる。 場面が浮かぶように詳しく話すことができる。 	話 し 手	<ul style="list-style-type: none"> 話す順番を意識して話す。 ものを見せるなど、聞き手を引き付ける工夫を考えて話す。
		聞 き 手	<ul style="list-style-type: none"> 表情豊かに聞く。 スピーチの内容と自分の体験を関連付けながら意見や感想を言う。 自分の考えとい違うところはどこか考えながら聞く。

《電子カルテ「あゆみ」から見るコミュニケーション能力の育ち・1年生の実践から》

【分析の視点 スピーチにおけるユーモアの研究】

『あゆみ』の記述より、実際に話したように言った「起っきろー」や「ぷりぷり」のように動きを的確に表した言葉が話し手のスピーチに勢いを付け、猫の様子を視覚化できたことで、聞き手とユーモアの共有ができた。身振り手振りを使っておかしさを見せて、効果的に面白さを視覚に訴えた。また、笑いを起こすことで多

「ネコの顔まね」

ペットのネコについての話で、「ぼくのうちのミーは、ぼくのベッドの上でこーんな顔をして眠っていました」と言いながら、ネコの顔まねをした。彼の頬を膨らませたおかしい顔は、みんなの笑いを誘った。「ぼくが『起っきろー』と言ったら、おしりをぷりぷりやって走っていきました」と楽しそうに話を続けた。

6月15日「電子カルテ」より

くの聞き手の興味を引き、話し手もその笑い声により、リラックスし、話すことの喜びを感じているようだった。

【分析の視点 スピーチが次の行動の動機付けになることはあるか】

児童Aがスピーチで言った「ありがとう」という母親への感謝の言葉が、学級の多くの子の心に響いた。児童Bは、「給食のおばさんに『ありがとう』と言いたい」と話した。

その後、他の多くの子供たちは、母親にうれしいごはんを作ってもらったことや父親に遊んでもらったことなどを思い出し、家に帰ってそれぞれの家庭で、感謝の言葉を家族に伝えた。そして、その感謝の言葉が翌日のスピーチで語られると、その対象は、学校でお世話になっている人たちへと広がり、感謝の言葉『ありがとう』の輪ができていった。児童Aのスピーチの内容が、学級全体の行動の動機付けとなったと言える。

「ありがとうの輪」

昨日のスピーチで、児童Aが「お母さんが、ブドウを買ってきてくれました。すごくおいしかったので、『ありがとう』と言いました」と話した。それを覚えていたのか、今日のスピーチ者は、「お父さんが、釣りに連れて行ってくれたから『楽しかったよ。ありがとう』と言ったら、…」と話した。児童Bは「今日の給食の焼きそば、すごくおいしかったから給食のおばさんに『ありがとう』と言いたいです」と話した。

7月18日「電子カルテ」より

(2) 1年生生活科での実践 <人間関係形成能力を育てる>

「木は友だち ーうっ木っ木ーランドをつくらうー」

- 目標 ① 自己肯定感を養う・・・棟梁、友達とのかかわりから、自分を見つめる。
 ② 主体的に活動させる・・・遊びや遊び場を考え、必要な物を計画を立てて準備する。

活 動 内 容 ()は配当時間を表す	獲得させたい職業的発達にかかわる諸能力
<p>錦の森で遊ぼう (2) 錦の森で木と遊ぼう (2) ・錦の森や木に関心を向けるため、放課に木で遊ぶ子たちの遊び方を広め、学級で遊ぶ活動をする。</p> <p>木とともだちになろう (2) 木の達人にお話を聞こう ・【大工の棟梁】 木の達人から、木を使った遊び場づくりの提案を聞くことで、その活動への意欲をもつ。 ・【木の博士】 五感を使って木と触れ合う方法を教えてもらい、木への愛着を深めるために、木の博士(常葉大学教授)を紹介する。</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> みんなで秘密基地をつくらう (6) 葉っぱのお面で遊ぼう (1) ・丸太を用意することで、放課にも木を使って自由に遊べるようにし、木の遊びの経験を積む。一方で、遊びの発想を広げるためのプランコなどは生活科の時間だけの設置に制限し、不足感と安全面の意識をもつ。 【棟梁と一緒に】 ・伊文神社のどんぐりや大王松の松ぼっくりを拾いに行く。 ・実や葉っぱでおもちゃを作つて遊ぶ。 ・木のバッジを作る。 </p>	<p>情報収集・探索能力 人間関係形成能力</p> <p>職業理解能力</p> <p>情報収集・探索能力</p> <p>役割把握・認識能力 人間関係形成能力</p>

<p>木のブランコを作ろう ターザンロープを作ろう 登り綱で遊ぼう 綱渡りで遊ぼう</p>		
<p>うっ木っ木ーランド祭りをしよう (19)</p>	<p>ランドの計画を立てよう (3) (資料2 巻末)</p>	
<p>・ランドづくりにじっくり取り組む場を保障するために、その期間、錦の森の借物を全校に許可してもらう提案をする。 ・具体的なもので分かりやすくし、子供のかかわりを活性化するために、模型や写真などを用いる。</p>		<p>計画実行能力 課題解決能力 人間関係形成能力</p>
<p>ランドを作ろう (10) (資料3 巻末)</p>		
<p>・自分たちが作ったという自覚をもつために、材料の運搬や(一部の安全な)作業に取り組む時間を設ける。</p>		<p>情報収集・探索能力</p>
<p>材料運び のこぎり引き 穴掘り ロープ結び</p>		
<p>みんなで作ったランドで遊んでみよう (2)</p>		
<p>・安全に気を付けて仲良く遊ぶ。</p>		<p>計画実行能力</p>
<p>祭りの計画をたてよう (2)</p>		
<p>・木の実を使った飾りやおもちも取り入れる。 ・模型を使って場所や地形にあった遊び場を考える。</p>		<p>課題解決能力 計画実行能力</p>
<p>お家の人や幼稚園の子を招待して祭りをしよう (2)</p>		
<p>・祭りを成功させるという気持ちを高めるために、お客さんを招待する提案をする。</p>		<p>人間関係形成能力</p>
<p>ありがとう！うっ木っ木ーランド (3)</p>		
<p>錦の森を元に戻そう (3)</p>		
<p>・安全や後始末の大切さを知るために、取り壊さなければならないことを提示する。</p>		<p>計画実行能力</p>

(3) 5年生 総合的な学習と国語科で職業観・勤労観を育む実践

ア コミュニケーション能力を実践的に活用する。

追究したい職人さんの所へ行って、子供たち自身が弟子入り交渉を直接行う。交渉の内容としては、弟子として行う仕事の内容や日程等である。何度もお願いに行き、やっと弟子入りを許してもらった。教室で培われたコミュニケーション能力が実践的に活かされる場面であった。

イ 職業観をはぐくむ実践・・・職人さんを追究する活動

夏休みを使って、仕事体験をした。「見る」「聞く」「体験する」など五感を使った仕事体験は職業や職人さんの生き方そのものを理解するよい機会になった。

ウ 勤労観を育む実践 (資料4 巻末)

職人さんの生き方に迫る話合いの授業で、後継者問題の記事を取り上げ、職人さんの苦労や生き方をとらえる。国語科「千年の釘にいどむ」(光村図書)の教材の発展領域で鍛冶職人の生き方に迫る。

4 成果と課題

(1) 成果

ア 教師や家族以外の大人(棟梁)とのかかわりの中で安心感が得られた。それは、棟梁の人柄の影響も大きい。その安心感の中で子供たちは挑戦し、頑張る姿をその場で認めてもらえたことは子

供たちの大きな自信となった。何度も木登りを挑戦する子や発言が積極的になる子も増えた。自己肯定感の芽生えがみられた。

イ コミュニケーション能力では、毎日の積み重ねで、人前で話すことに抵抗がなくなり、「話すこと」「聞くこと」及び「伝え合うこと」を楽しみにする子が増えてきた。そして、視点を設けて分析した結果、かかわり合いのある話合いができるようになってきた。また、町学習での一人調べや町の人との交流の場においても、粘り強くインタビューをしたり、疑問に思うことを聞いたりする子が増えた。

ウ 5年生の国語科で「千年の釘にいどむ」（光村図書）の学習をすることも、職人さんをとらえる上で有効であった。町学習で調べている職人さんのことと、「千年の釘にいどむ」の鍛冶職人さんのことを重ね合わせて、考えるようになった。話合いの場では教科書に出てくる「なっとく」「やりとげる」といった言葉も使用されるようになった。また、国語でも読み取りが深まった。これは町学習での仕事体験や職人さんとのやりとりで実感したことが、大きく影響していると考えられる。

（資料5 巻末）

エ 職人さんの後継者問題や苦労など、様々な職人さんの生き方を考える話合いの授業をすることで、職人さんのよさを広めたいという、主体的な行動をおこす子も出てきた。（資料6 巻末）

（2）これからの可能性

ア 子供たちの追究意欲は様々であるので、一斉に活動を組むのが難しく、授業以外の時間にも頼ってしまった部分がある。

イ すでにキャリア教育が行われている学校区の中学校を視野に入れた単元づくりと連携方法の構築が必要である。

ウ 電子カルテを使って個のキャリア教育に関する記述を中学校に送り、連携方法の確立を図ると一層効果的なキャリア教育になる。。

5 おわりに

町の職人さんや働く人は、子供たちに様々なことを教えてくれた。子供たちにとって職人さんはあこがれの存在であり、尊敬すべき人物となっていた。また、今回の様々な経験は、子供たちの生きる力の土台となるであろう。彼らが大人になる過程の様々な場面で、今回の実践で学んだことが思い出され、職人さんの技や心から学んだことが「生き方」に反映されることを願う。

コミュニケーション力をつける①

○コミュニケーションを円滑にするための四つの基本原則

- ①目を見る ②ほほえむ ③うなずく ④相づちを打つ

☆「目を見るために」

【アイコンタクトゲーム】

- ①クラス全員が立つ。
- ②スピーチをする間に、聞き手と一人一人目を合わせていく。
- ③しっかりと目が合ったと思った人から座っていく。全員を座らせることができたら合格。

※何となく見たではだめ。はっきりピンポイントで、焦点を当てて見るんだよ。1～2秒でいい。目からレーザービームが出ている感じで。一人一人確実に目を合わせていく気持ちで。

☆「ほほえむために」

※やはり必要なのは意識と練習です。欧米の家庭では、子供に「ほほえみ」を練習をさせるそうです。鏡の前に立たせ、口の横あたりをフツとゆるめる。そう言えば、すれ違ふとき、知らない人にでも、あいさつ代わりにフツとほほえんでいくことが多い。中学年あたりから仕込むと身に付きやすいと思います。是非練習を！

☆「うなずく・相づちを打つために」

【うなずき君、相づち君ゲーム】

スピーチの合間、合間に、聞き手は「うん」と声を出しながら大きくうなずく。タイミングは、文の切れ目の[マル]のところで合いの手を入れる感じである。話し手は、合いの手を意識して、意味の切れるところで間を置く。聞き手は、みんなそろえてコクンと頭を下げる。相手の読みを意識し、呼吸を合わせる練習である。

例)「あるところにおじいさんとおばあさんが住んでいました。」「うん」「おじいさんは山へ芝刈りに行きました。」「うん」「おばあさんは川へ泳ぎに行きました。」「うん」・・・

※最初はだれでも知っている昔話がいい。「うん」を「へー」とか「なるほど」「そうですね」などに置き換えると、『笑っていいとも』調になり、楽しく相づちを打つ練習になる。

コミュニケーション力をつける②

☆「ことばで伝える」

【ことばだけで伝えるゲーム】

《準備》クラス全員に（話し手はのぞく）、白紙を配る。

- ①代表児童に下のような記号や図形を見せる。
- ②話し手は、ことばだけでその形をクラスみんなに伝える。聞き手は、それを白紙にかく。
- ③話し手は、答えを黒板にかく。聞き手は、隣どうしで紙を交換し、100点満点で採点をする。50%が100点だったら合格。
- ④どのように話せば正確に伝わるか話し合う。

※聞き手には、話し手の内容を予想して書くのではなく、聞いたそのままにかくように指示する。小グループでやってもおもしろい。

コミュニケーション力をつける③

☆「からだで音読する」

【準備体操】

- ・軽くジャンプ
- ・からだをゆさぶる（肩が動くように）
- ・からだを液体化
- ・四股立ち
- ・肩入れ

【最速読み】

- ・速く正確に読む。間違えるところまで読む。1人読み。

【点回し読み】

- ・「、」「。」で次の人に移る。「、」「。」で間をあけない。前の人の最後の一語と次の人の最初の一語を重ねる感じ。少人数でもクラス全体でやってもおもしろい。

【からだで音読】

- ・二人一組。おんぶして音読。おんぶの下の人を読む。おんぶして歩きながら読む。声を腹から出す。踏みしめるリズムに声を合わせて読む感じ。

【一冊読破】

- ・5時間かけて『坊ちゃん』を読破。大きな自信につながる。

コミュニケーション力をつける③

☆「からだで音読する」

【準備体操】

- ・軽くジャンプ
- ・からだをゆさぶる（肩が動くように）
- ・からだを液体化
- ・四股立ち
- ・肩入れ

【最速読み】

- ・速く正確に読む。間違えるところまで読む。1人読み。

【点回し読み】

- ・「、」「。」で次の人に移る。「、」「。」で間をあげない。前の人の最後の一語と次の人の最初の一語を重ねる感じ。少人数でもクラス全体でやってもおもしろい。

【からだで音読】

- ・二人一組。おんぶして音読。おんぶの下の人が読む。おんぶして歩きながら読む。声を腹から出す。踏みしめるリズムに声を合わせて読む感じ。

【一冊読破】

- ・5時間かけて『坊ちゃん』を読破。大きな自信につながる。

(1) 目標

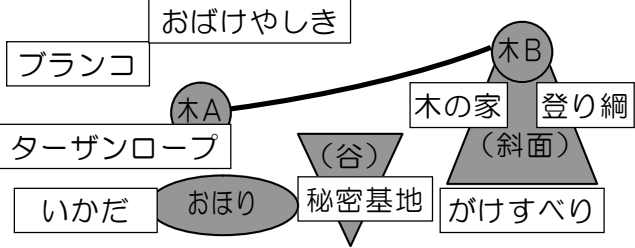
自分が考えたランドの構想や遊具などを、絵や模型を使って言葉で表現することができる。また、1年2組のランド計画に自分の願いや考えをかかわらせていくことができる。

(2) 身をのり出して学び合う子どもの姿

ランドの計画がみんなの考えを重ね合わせてできあがっていく中で、「同じ樹木に複数の遊具は作れないのではないか」「この場所にこの遊具は危険ではないか」等の疑問や問題に気づき、これまでの経験などを根拠にして自分の考えをかかわらせていこうとする姿。また、それが教室で解決できなければ、実際に現地を見に行こうとする姿。

(3) 学習過程

○身を乗り出すための手だて

学習段階	児童の活動	教師の支援
つかむ (10分)	<p>1年2組の「うっ木っ木ーランド」計画を立てよう。</p> <p>1 自分の考えたランド計画を発表する。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 発表意欲を高めるために、棟梁のツリーハウスの計画も発表の中に取り入れる。 子供たちが教室で、ランドの全体像を見ながら考えて議論しやすくするために、錦の森の地形図を用意する。
深める (20分)	<p>真ん中の木Bには、何を作ろうか。</p> <p>2 今の計画の疑問点や問題点を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> そんなにたくさん作れないよ。 同じ木にいっぱい作れないよ。 ブランコは、他の木にも作れるよ。 おばけの基地は、木Aと木Bの間が面白いよ。 がけすべりの下におばけ役の子がいると面白いね。 この斜面は急だから、登り綱が面白いよ。 木の家は斜面の反対側に作ればいいよ。 がけすべりと、登り綱はぶつからないように通道路の方向を同じにしよう。 	<ul style="list-style-type: none"> 遊具を作るのに適した樹木や場所には、複数の遊具の計画が重なるだろう。そこで、一カ所を取りあげ、そこに何を作るのかを話し合わせる。その際、単に作りたいたいという思いだけでなく、これまでの経験や地形、木の形状を根拠に挙げて説明できるように支援する。
まとめる (15分)	<p>3 疑問点や問題点を解決するために、模型を使って場所の話合いをしたり、現地へ見に行ったりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ブランコやターザンロープは、木Cにも作れそうだね。木Aは、家がいいよ。 斜面は、やっぱり登り綱が面白そうだね。 おばけのいる場所はここがいいよ。 	<ul style="list-style-type: none"> 樹木や地形の具体像が分からないために解決できない問題については、実際に現地を見に行くことを促す。

(4) 評価

これまでの経験や地形・木の形状などを根拠にして、ランド全体像や個々の樹木・場所に適した遊具を考え、1年2組のランド計画にかかわることができたか。

<p>11月2日</p>	<p>授業内容 11月2日 職人さんと同じ所が無いと思 っていたけど、以前作った職人さんとして共通なことの 前に作った物より新しい物を作るとおぼろげ</p>
<p>11月</p>	<p>授業内容 白鷹さんの釘作りにかける思い 職人としての思い カカハービや、火死など、11月13日大 事なことが出てきて、職人さんはすごいな と、おぼろげに思った。</p>

授業記録 10月30日(火) 3時間目

本時の活動 みんなの力で「職人さんにしてあげられること」を話しあおう。

話しよく品、作品をわたす。

職人さんのことをせんでんする。(チラシなど)
 ポスターをはる。ーしゃくまにまかをえる。 ーくはり

西尾市以外 職人ぼしゅう 西尾の人によひかけ ー回らんはん
 第入りぼしゅう 職人さんのまか

新聞写真 西尾小のホームページ 職人の技 西小のホームページ アクセス数ある どの職人さんも 検索すまて きてくれかい
 愛知県 店の場所 2つやるー ホームページ ポスター 生きがい、伝統を守りたい 電車の音

思ったこと・感じたこと

新聞をやるのは、みんなどうって11月13日の人から11月13日、職人さんのためなの
 ためすだけじゃ、せまほうか11月13日
 お父さんが名鉄のかんけいしやなので、きいてみたいですね。

いいうえがあつたか。どこに聞いたらいいか、聞いてみて!

社会で生き生きと活動する基礎をはぐくむキャリア教育

－「せともの」をモチーフにした3年間を見通した実践－

瀬戸市立本山中学校

1 はじめに

ニート、フリーターと呼ばれる定職に就こうとしない若者層の増加が社会問題になっている。また、若者の勤労観・職業観の未熟さ、コミュニケーション能力やマナー意識の低下を指摘する声がよく聞かれる。このような情勢を受け、学校教育の中で、「望ましい職業観・勤労観及び職業に関する知識や技能を身に付けさせるとともに、自己の個性を理解し、主体的に進路を選択する能力・態度を育てる教育」、すなわち、キャリア教育の必要性が叫ばれるようになった。

国の施策の中で、平成17年度に経済産業省が中心となり、文部科学省・厚生労働省と連携して、「地域自律・民間活用型キャリア教育プロジェクト」が打ち出された。瀬戸市において瀬戸商工会議所のコーディネートの下、市内小中学校と地元産業界が連携し合っこのプロジェクトが進められている。本校も、初年度の平成17年度からこのプロジェクトに参加している。

本校では、キャリア教育を進めるに当たって、そのねらいを、「社会で生き生きと活動する基礎を育む」ことにした。このねらいの下、まず、職業や働くことについての理解を深めさせたいと考えた。さらに、職業や働くことに対して、前向きなとらえ方、積極的な職業観・勤労観をもたせることが必要であると考えた。

2 本校におけるキャリア教育の手だて

(1) 職業人との出会いの場の設定

「社会で生き生きと活動する基礎」をはぐくむという本実践のねらいを達成するために、最も重視したいのは、実際に「社会で生き生きと活動」している方々と生徒が会う機会を多く設定するということである。様々な職業の方々と会う機会をできる限り多く設定し、生き生きと働く職業人の声を聞かせたり、姿を見せたりしたい。そうすることで、具体的に職業や働くことについて理解を深めさせたり、前向きな職業観・勤労観をもたせたりできると考える。

(2) モチーフとしての「せともの」

瀬戸市は古くから続く焼き物の町で、本校学区は、かつて瀬戸の焼き物産業の中心地だったところにある。しかし、1980年代半ばの円高不況以来、焼き物産業は衰退を続けて、現在は廃業した焼き物工場の跡地にマンションが建ち並んでいるという状況である。それでも、地域には、昔ながらの街並みが残り、伝統的な焼き物作りに携わる人も少なくない。また、学区にある名鉄尾張瀬戸駅周辺は近年観光に重点の置かれた再開発が進み、せとものを販売する商店が軒を並べている。そういう地域に位置する本校でせとものを取り上げることによって、次のような効果が期待できると考えられる。

- ・ 「せともの」に関連したいろいろな職業人の方と触れ合える。
- ・ 製造業だけでなく、商業、サービス業など幅広い業種とかがかわれる。
- ・ 生徒の多様な興味や考えを生かした展開が可能である。

このような考えに基づき、本校ではせとものをモチーフにして、キャリア教育を進めていくことに

した。

(3) 3年間を見通したカリキュラムの作成

各学年の特性や進路指導計画などにも考慮しながら、3年間を見通した計画を立てることとした。中学校におけるキャリア教育と言えば、2年生で行う職場体験活動が大きく取り上げられる傾向がある。本校では、職場体験もキャリア教育の活動の一つとし、入学から卒業までの3年間で、本校にキャリア教育のねらいが達成できるように計画的に指導していくこととした。

3 キャリア教育の指導計画

(1) 計画の概略

学年	活動名	活動の概要
1年	せともの探訪	・せとものに関連する課題を班ごとに追究し、その成果をまとめて発表する。
	身近な職業調べ	・親や知り合いの人の職業について調べる。
	職業調べ	・興味のある職業を調べるとともに、特定の職業について全体で詳しく調べる。
2年	もとやま工房	・商品になるせとものを企画・製造し、実際に店頭で販売する。
	職場体験	・自分の興味のある職業について、瀬戸市内を中心にして職場体験活動を行う。
3年	上級学校調べ	・自分の進みたい高校・専修学校・職場について調べる。
	生き方講座	・職業人を講師に招き、生き方について講演を聞く。
	コミュニケーション講座	・自分の特性を理解し、アピールする方法を学ぶ。
	卒業記念プレート制作	・せともので卒業記念のプレートを作り、校内に設置する。

(2) 具体的な計画

本校では、主に、総合的な学習の時間に、キャリア教育を行うことにしている。また、学活での進路指導と重複しないように、学活の計画も調整し、内容によっては学活の時間に指導するようにしている。

総合的な学習の時間は、1年・2年で週に2時間、3年で週に3時間設定されている。そのうち、全学年で1時間を国際理解教育に、3年生で1時間を情報処理教育に当てている。したがって、総合的な学習の時間にキャリア教育に取り組めるのは、週に1時間しかない。しかも、その時間に、野外活動や修学旅行、体育祭、文化祭などの行事の準備や練習も行わなければならない。そのため、いろいろな行事との兼ね合いも考慮し、3年間を見据えた綿密な計画が必要となる。

次に示すのが、本校のキャリア教育の年間計画である。これを基に、学年ごとにより詳細な計画を作成している。

[キャリア教育の年間計画]

月	1年	2年	3年
	○キャリア教育オリエンテーション（全校）		
4月	○「せともの探訪」のオリエンテーション	○「もとやま工房」のオリエンテーション ○「もとやま工房」の商品企画	○「卒業後の進路を考えよう」
5月	○「せともの作り方を調べよう」 ○せともの作品の構想スケッチ ○せともの作り	○「会社経営について学ぼう～会社経営講座」 ○「もとやま工房」の会社組織作り	○「上級学校を調べよう」
6月	○せともの探訪調べ学習準備 ○せともの作り（施釉）	○各部署の活動計画 ○「もとやま工房」各部署の事前活動	
7月	○せともの探訪調べ学習 ○せともの探訪のまとめ	○職場体験に向けて	○「上級学校を調べよう」 ○学校見学・職場見学の計画
9月		○マナー講座	○「受験の仕組みを知ろう」
10月		○職場体験に向けて ○職場体験 ○職場体験のまとめ	○「自分に合った進路を選ぼう」 ○生き方講座
11月	○せともの探訪発表会準備 ○せともの探訪発表会 ○身近な職業調べ	○職場体験のまとめ ○職場体験発表会 ○「もとやま工房」準備 ○「もとやま工房」商品製作	○「自分に合った進路を選ぼう」 ○面接試験に向けて
12月	○身近な職業調べ ○身近な職業調べまとめ	○「もとやま工房」商品製作（施釉） ○もとやま工房販売準備 ○「卒業後の進路を考えよう」	○コミュニケーション講座 ○卒業文集制作
1月	○職業調べ ○職業講座	○もとやま工房販売準備 ○販売研修	○卒業記念プレート制作
2月	○職業調べまとめ ○せともの作り [工房試作]	○もとやま工房販売準備 ○もとやま工房販売体験	○卒業記念プレート設置 ○受験に向けて
3月	○「もとやま工房」のまとめ発表会に参加 ○来年度の「もとやま工房」に向けて	○もとやま工房のまとめ発表会	

*上記表中の水色の項目が、外部から講師を招いたり、校外で調査活動や体験活動を行ったりするなど、校外の職業人の方と接する機会のある活動である。

4 活動の実際

(1) 1年生の活動

1年生のキャリア教育は、その前半に、キャリア教育のモチーフとして据えた、せとものに対する興味をもたせることと理解を深めるための学習「せともの探訪」を行う。実際に自分でせともの作品を作り、せとものを作る面白さを体得させる。そして、成形、素焼き、施釉、本焼きといったせとものを作るための一連の工程を理解させる。その活動の中で、せとものあるいは瀬戸に関連して興味をもったことを課題にして調べ学習を行う。調べ学習の中で、地域で働く人々の姿に触れるようにする。

後半には、職業についての理解を深める学習をする。まず、親や知人といった身近な人の仕事の内容、働く苦勞、喜びなどを調べさせる。次に、特に興味のある職業について調べたり、職業人の方を講師に招いてその職業についての仕事の内容、苦勞、喜びを聞いたりする機会を設ける。

せともの探訪

①「オリエンテーション」

まず、瀬戸の陶芸家を取り上げたビデオを視聴させた。地域に「せともの」の文化・産業があることを再確認するとともに、陶芸家の生き方に関心をもたせた。



②「せとものを作ろう」

せともので動物をモチーフにした置物を作らせた。釉薬^{ゆうやく}もかけ、本焼きもすることにした。せとものを作る一連の工程を理解させるとともに、せとものについての興味を喚起した。

③「『せともの探訪』調べ学習」

せともの作りを実際に行い、せとものあるいは瀬戸について興味をもったことを課題にして調べ学習をすることにした。生徒が設定した課題は、次のようなものである。

「深川神社～^{こまいぬ}狛犬の歴史」 「^{けいさ}珪砂の秘密」 「加藤民吉」 「本山中周辺の和菓子屋さん」
 「招き猫・招く猫」 「陶祖祭」 「ノベルティの歴史」 「名物料理 in 瀬戸」
 「瀬戸のおすすめ料理」 「瀬戸駅の歴史」 「陶器作りの道具について」



生徒は、班ごとに市内で調べ学習を行った。陶土採掘場から産出される、ガラスの原料である珪砂^{けいさ}について調べた班は、実際に採掘場に行き、珪砂^{けいさ}がどのようなものであるか説明を聞いた。さらに、珪砂^{けいさ}と陶土、普通の土や砂をどのように分類するのか実演で示してもらった。

招き猫について調べた班は、招き猫を作っているせともの工場を見学した。そして、せともの店を回り、いろいろな招き猫があることや招き猫のいわれなどを調べた。

④「『せともの探訪』発表会」

2学期の学校公開日に、「せともの探訪」で調べてまとめたことを発表する発表会をもった。この発表会には、保護者のほか、学区の小学生、地域住民の方を招いた。

生徒は、パソコンを使ってプレゼンテーションをしたり、B紙(模造紙)を使ってまとめたことを発表したりした。



(2) 2年生の活動

2年生の活動の中心に、「もとやま工房」という活動を据える。これは、自分たちでせとものを作り、それを商品として実際に店頭で販売するという活動である。制作や販売の際に、実際にせとものを作っている方、店で商品を売っている方から、その方法を学ばせたい。また、その活動に付随して、会社はどのような仕組みで成り立っているか、販売をどのように宣伝するかなども実際にその関連の仕事をしている人から学ばせたいと考える。

多くの学校で2年生のキャリア教育の中心として行っている職場体験も10月に行う。体験する事業所を選ぶ際、生徒の興味・希望を基にするとともに、「もとやま工房」での役割分担を踏まえ、「もとやま工房」で生かせる仕事にも出掛けるようにする。例えば、宣伝を担当する生徒は、優先的にマスコミ関係の職場体験をさせるなど配慮したい。

もとやま工房

①「オリエンテーション」

生徒は、前年度の3学期に、「もとやま工房」の活動の準備として、自分で使うせともの食器を作っている。自分で自分の作品を使ってみて、「重い」「形が悪い」「口のところが平らになっていないので使いにくい」などの印象をもっていた。

4月、全校でのキャリア教育のオリエンテーションで、前年度の「もとやま工房」の販売風景の写真を見た後、学年でのオリエンテーションで「もとやま工房」で販売した商品を見せた。また、陶器店で売られているせとものを数点提示し、商品としてせとものを作ることへの関心をもたせた。

②「会社組織を作ろう」

学年全体を一つの会社に見立てて、皆で仕事を分担して作業を進めていくことにした。役割を分担する前に、せともの工場の経営者を招いて会社経営の仕組みや心得などを聞く、「会社経営講座」を開催した。会社で考案したせともので作ったのはがきや陶製のノートパソコンを置く台などを持参され、そういう製品が誕生したいきさつや会社内の組織のことなどを話された。

後日、この講座の話をもとに、会社としてどんな仕事が必要かを皆で出し合い、それらをまとめて、経営部、製造部、宣伝部、販売部の四つの部署を設けることにした。



会社経営講座

③「各部署の活動」

製造部の生徒が、商品を企画するために、実際にどんなせとものが売られているか、どのような商品に人気があるのかなどを調べに行くことにした。校区の11軒の陶器店で、商品の調査を行った。また、経営部の生徒は、会社経営講座の講師の方が経営するせともの工場を訪ね、せともの作りに必要な様々な設備・仕事を見学した。

ホームページによる宣伝の方法も教えていただいた生徒もいる。

広報部の生徒は、ケーブルテレビ局、地元FMラジオ局、新聞社を分担して訪ね、「もとやま工房」の活動の紹介をし、取材や広報の依頼を行った。販売部の生徒は、陶器店で商品の並べ方や接客の様子を見学した。



商品調べ

④「職場体験」

10月16日から18日までの3日間、市内を中心に約40か所の事業所に出掛け、職場体験を行った。職場体験をする事業所は、過去に職場体験を受け入れていただいた事業所のリストを参考にして生徒が希望した職種・事業所を基に決定した。生徒は、自分の興味のある事業所を希望する一方で、「もとやま工房」の会社組織に基づき、製造部の生徒がせともの工場で、宣伝部の生徒がNHKや地元のFMラジオ局で職場体験をした。



せともの工場での職場体験

⑤「商品を作ろう」（18年度の実践）

製造部のアイデアを基に、全員でせともの作りに取り組んだ。生徒が考えたのは、湯のみや小皿のほか、陶製のマグネット、写真立て、ペーパーウエイトなどであった。販売部の生徒の用意した図案を基に、製品作りに取り組んだ。講師に地域の陶芸家の方を招き、作り方の指導を受け、全員の生徒で製品作りを行った。

⑥「販売の仕方を知ろう～販売研修」（18年度の実践）

販売日を前に、販売や接客の方法を学ぶために「販売研修」を行った。陶器店の販売員や酒店の経営者の方などを講師として招いた。販売員としての心得を話していただいた後、あいさつの仕方や商品の包み方、お金の受け渡しの仕方などを具体的に教えていただいた。

⑦「販売体験」（18年度の実践）

3月に自分たちで作ったせとものを商品として販売する体験を行った。店を出した場所は、名鉄瀬戸線の尾張瀬戸駅前の歩道である。この販売に先立ち、宣伝部の生徒が送ったこの宣伝用のフリップがNHKの番組で紹介された。また、当日は地元FMラジオ局の番組にも生出演させていただいた。

当日は、生徒の準備した看板を掲げ、本校保護者だけでなく多くの観光客にも来店していただいた。生徒は、先日の販売研修で学んだことを生かし、笑顔で接客に当たった。昨年度は、4時間の販売で、約4万円の売り上げを納めた。

販売体験後、生徒はこの売上金の使途をどうするか何度も話し合った。最終的に、車いすを購入して学校に寄贈することにした。



(3) 3年生の活動

3年生のキャリア教育は、実際の進路選択を目前に控え、中学校卒業後どのような進路があるのかを学び、自分の進路を決めていく活動が中心になる。

卒業後の具体的な進路選択の学習だけでなく、視点を少し遠くに置き、どのように社会で生きていくのかをこの時期に考えさせることも大切である。そこで、「生き方講座」と題して、実際に社会で活躍してみえる職業人の方を講師に招き、その生き方について話を聞く機会を設けることにした。また、自分に対する理解を深め、人と円滑にコミュニケーションをとる方法を学ぶ機会も設けた。

最後に、1年生の時から取り組んできたせともの作りのまとめとして、卒業記念に思い出のメッセージを記したせとものプレートを作り、校内に卒業記念品として設置することにした。

生き方講座

「生き方講座」は、市民講師の方を講師に招き、それぞれの人生について語っていただくものである。新聞記者、和菓子職人、アナウンサー、市役所職員、美容師、レング会社経営者の6名の方にお越しいただいた。その仕事に就きたいきさつや仕事のやりがい、苦労などを話していただいた。生徒は、次のような感想を書いた。



○最初は特に考えがなくてやってみても、いつかはしっかりとした芯をもつことができるんだと少し安心しました。私には、今、特に決まった夢や希望はありません。将来どうなっていくのか全く分かりません。しかし、これから出会う人との交流を大切に、何事にも一生懸命取り組んで経験を積んでいきたいです。

○僕はまだ15歳で夢も見付けておらず、困っていました。でも、講師の皆さんのおかげで、これから夢を見付けるチャンスが何回も訪れることに気がきました。講師の皆さんの話を聞いて感動しました。皆さんが今日までに、くじけず、あきらめずに夢に向かって頑張ってきたのを知り、すごいなと思いました。どんなことでもあきらめなければかなうんだと思いました。

卒業記念プレート作り (18年度の実践)

①「卒業記念プレートをデザインしよう」

本校では、数年前から卒業記念として、思い出を記したせとものプレートを作り、校内に設置するという取組をしている。過去の卒業生が残っていた、プレートを参考にしながら、自分のプレートのデザインを考えさせた。

②「プレートを作ろう」

自分で考えたデザインを基に、陶芸家の指導を受けながらプレート作りを行った。生徒は、卒業の記念になる言葉を考え、それを立体的に表現した。

③「プレートを設置しよう」

施釉^{せゆう}、本焼きを終えた作品を校内に設置する作業を行った。昨年度は、運動場のスタンドに設置することにした。全員のプレートを合わせて、「本山」という字を作った。後日、校長を招き、学校に対する贈呈式を行った。



完成したプレート



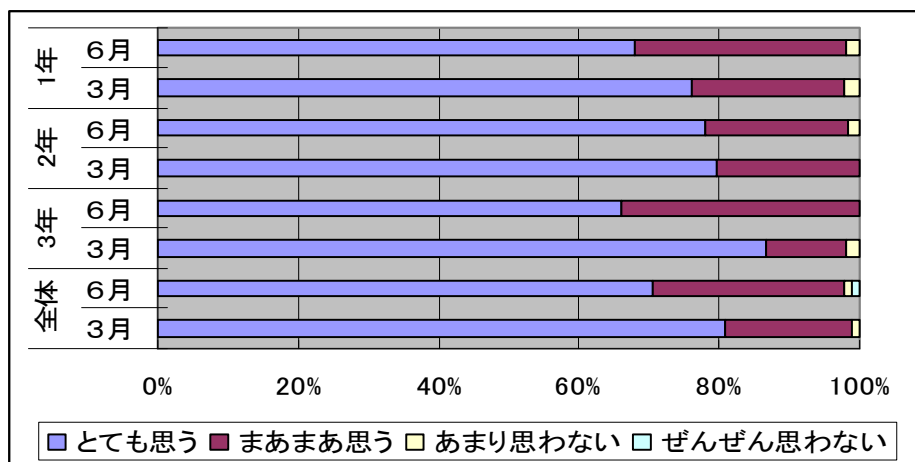
設置したプレートを囲んで

5 まとめと今後の課題

本実践のねらいは、職業や働くことについて理解を深めさせること、さらに、職業や働くことに対して、前向きなとらえ方、積極的な職業観・勤労観をもたせることである。

その成果を評価するために、生徒の職業観の変容を見ることにした。昨年6月と3月に意識調査を行った。ここでは、生徒が将来働きたいと思うかどうかについての調査の結果を検討したい。

〔「将来働きたいと思うか」という質問に対して〕



本実践を行う前の6月では、「とても働きたいと思う」という生徒が70%であった。それが3月には81%に上昇した。「とても働きたいと思う」と答えた生徒の割合は、どの学年も上昇しているが、3年生は66%から86%に大幅に上昇した。本実践の成果としてこのように就業意欲、勤労意欲が高まったと考えたい。

どんな仕事に就きたいかという質問に対して、ほとんどの生徒が「やりたい仕事」「自分のよさを生かせる仕事」を選んだが、「もうかる仕事」「楽な仕事」を選ぶ生徒も増えた。これらの観点も就業の観点として否定できないが、より積極的な職業観・勤労観をもたせるために、生きがい、やりがいあるいは働く喜びのようなものに触れさせる機会をより多くする必要があると思われる。

本論で述べたように、本校では、せとものをモチーフにしていろいろな職業・仕事に対する理解を深める活動に取り組んできた。3年間の指導計画を立て、学年に応じて計画的にキャリア教育を実践してきた。今年度の実践がそうであったように、今後もよりよい実践を目指して、前年度の活動内容を踏襲しつつ、それを見直し・改善していきたい。

キャリア教育と「産業社会と人間」

愛知県立蒲郡高等学校

1 はじめに

(1) 本校の概要

本校は1学年6学級の全日制総合学科（平成15年度より総合学科）である。「勤勉・礼節・自律」という校訓の下，地元の人に愛され親しまれ，知・徳・体共に整った高校生の育成，日進月歩の社会の発展に対応し，寄与できる人材の養成を目指している。そして，生徒たちの夢をはぐくみ，個性を育て，「これまで」よりも「これから」を重視し，生き生きと活躍でき，自分たちの可能性を拓くことのできるチャレンジスクール（自分にチャレンジする）を目標に頑張っている。卒業後の進路先については，大学短大進学90名程度，専門学校進学60名程度，就職80名程度であり，多様な進路先に対応している。

(2) 産業社会と人間

「産業社会と人間」は総合学科における原則履修科目として1年次に全員が履修しており，週2単位実施している。授業担当は，1クラスを正副担任の2人で行い，それぞれ20名ずつ担当している。授業内容は，自己理解・職業理解・学問理解・将来設計（ライフプラン）をキーワードに自分史作成や発表，職業人インタビュー，適職適学進路適性検査，外部講師講話，科目選択ガイダンス，進路研究，そしてライフプラン作文作成等，進路希望にかかわらず全員対象に実践している。なお，授業ごとにワークシートを用意し，提出させており，その毎時間のワークシート（指導案を含む）は学校独自の教材として作成したものを使用している。

(3) 学校全体の取組

進路指導部による学年別進路指導を始め，1年次の「産業社会と人間」，2年次・3年次の「総合的な学習の時間」を通して，将来の職業選択を視野に入れた自己の進路への自覚を深める学習や生徒の興味・関心，個性を生かした科目選択（指導）や主体的な学習を重視し，多様な能力や適性の伸長を目指し柔軟に対応している。また，社会体験学習（インターンシップや実習体験），ボランティア活動，地域貢献活動を広く生徒に奨励し，普段のあらゆる学校行事や教育活動を通して，キャリア教育の推進を図っている。

2 本実践のねらい

本校生徒（総合学科生）の入学時の進路希望は例年，進路希望未定の者の割合が全体の2割を超えている。今年度においては，4割近い数字になっている（資料1）。その現状を踏まえ，「産業社会と人間」の授業において入学当初にオリエンテーションとともに適職適学進路適性検査を行っている。この検査は，職業人2万人のデータベースを基に，自分と似た価値観・興味・志向をもった人が実際にどのような仕事や学問の分野で活躍しているかを分析し，自分に合った仕事や学問は何かを考えるきっかけを提供する検査である。

この検査の客観的な結果を基に，授業では「自己理解」「理解」「学問理解」について深く学び，調べていく内容になっている。「世の中にはどのような職業や学問がある

【資料1 本校生徒の入学時進路希望】

	H17	H18	H19
大学	42	44	41
短大	22	32	30
専門学校	74	52	46
就職	51	38	33
未定	47	74	89

のか」「その職業に就くためにはどのような学部学科に行けばよいのか、どんな学校を選べばよいのか」など自分の将来に向けての方向性を見出すことを大きな目的としている。そして、自分の進路についての明確な目標設定を行い、その進路に応じた科目選択、または、興味・関心に応じた科目を選択・決定していくとともに、高校3年間の目標設定、高校卒業後の将来設計（ライフプラン）についても自らの考えをまとめ、その実現に向けて主体的に取り組むことをねらいとしている。（資料2）

【資料2

「産業社会と人間」のイメージ】

将来設計（ライフプラン）	
科目選択	
職業理解	学問理解
自己理解	

3 実践の実際

(1) 「産業社会と人間」の年間計画

学期	目的	月	学習テーマ（配当時間）	学習内容
1	自分及び	4	進路適性検査受験 (2)	進路適性検査受験
			新入生オリエンテーション (2)	蒲高ガイダンス 担任面接資料、自分史作成資料配付
			自分を知る〈自己理解〉 (1)	自己理解、性格やパーソナリティの傾向を知る
			自分史作成発表〈自己理解〉 (2)	自分史のワークシート作成。クラス内発表
	職業を知る	5	職業を知る〈職業理解〉 (1)	教材を用いて「働く面白さ」について学習
			学問を知る〈学問理解〉 (1)	教材を用いて職業・資格の種類と上級学校の調べ学習
			適性検査結果と自己理解 (1)	検査結果を用いてワークシート作成
			適性検査結果と適職・適学 (2)	検査結果を用いてワークシート作成
			合同進路講話 (1)	昨年度の進学・就職実績から学ぶ
	系列を知り選択科目	6	系列・科目オリエンテーション (1)	系列の考え方・科目履修計画作成のための科目説明
			卒業生講話 (1)	進学・就職した卒業生の講話
			選択がイグダンス／進路学習 (1)	1年次各選択科目のガイダンス
			履修計画作成がイグダンス (1)	2・3年選択履修計画の立て方についての全体説明
			保護者会	1年次選択科目仮登録・進路希望調査
			2・3年選択がイグダンス (2)	2・3年次各選択科目のガイダンス
			系列進路希望調査 (1)	系列希望調査の実施
			大学企業見学事前学習 (1)	大学又は企業見学の事前学習。
	目考察	7	履修計画作成作業① (1)	科目選択がイグダンスを用いて3年間の履修計画を立てる
			履修計画作成作業② (1)	科目選択がイグダンスを用いて3年間の履修計画を立てる
			履修計画作成作業③ (1)	履修計画再考、原案作成
		8	2・3年次科目選択指導	1年次選択科目本登録、2・3年次科目選択仮登録

2	自己 現 の	開講予定講座発表／調整	(1)	希望状況の説明，再検討の日程説明，調整	
		夏休み課題発表	(2)	職業人インタビューのクラス内発表	
		外部講師講話	(1)	進路専門家によるパネルディスカッション式講話	
	た	9	進路研究①	(1)	就職，上級学校について学ぶ
			進路研究②	(1)	各進路別の指導の流れについて学ぶ
	め の 科 目	10	外部講師講話(1)	(1)	「働く意味と目的」について
			進路研究③	(1)	履歴書，志望動機書，小論文の形式について学ぶ
		小論文指導①～④	(4)	文章の書き方，文章要約，自分の意見の論理的な記述	
		科目調整指導			
	選 択		外部講師講話	(2)	市民講師による職業講話
			小論文⑤	(1)	課題小論文（論述）を書く
	将 来 の 夢 の ま と め	11	保護者会		最終的な選択科目調整
外部講師講話			(1)	「キャリアデザイン」と自分の生き方	
12		ライフプラン作成①～④	(4)	進路計画を発展させ，夢実現に向けどのように取り組むのかを計画，作成する	
		ライフプラン冊子作成⑤～⑦	(3)	ライフプラン（生涯にわたる人生設計を論理的に論述）の清書，冊子としてまとめる	
3	1	ライフプラン作成冊子製本	(1)	冊子製本作業を行う	
		ライフプラン クラス発表	(2)	クラス内で各自のライフプランの発表	
	2	産業調査学習①②	(2)	修学旅行（2年次5月北海道）の産業・歴史調査学習	
		産業調査学習③	(1)	修学旅行（2年次5月北海道）の産業・歴史調査学習	
	3	ビデオ学習	(1)	「自立と職業」をテーマにしたビデオ学習	
		外部講師講話	(1)	「夢へ向かって努力しよう」講話を通じて学ぶ	
		ライフプラン学年発表会	(2)	学年代表による発表と1年間の総括	
	3	反省とまとめ	(1)	1年間のまとめ，アンケートや感想文	

(2) 評価方法

「産業社会と人間」の学習活動の評価については，教科のように試験を行うのではないので時間ごとに提出するワークシートや報告書（課題）を含めた提出物，発表内容（資料3），そして授業に取り組む態度等を総合的に判断し，5段階評価をしている。なお，各個人用の専用のファイルを配付し，毎時間のワークシートはいつでも自分で確認できるように，すべてファイルに閉じて保存するようにも指導し，徹底させている。

【資料3 生徒によるプレゼンテーション】



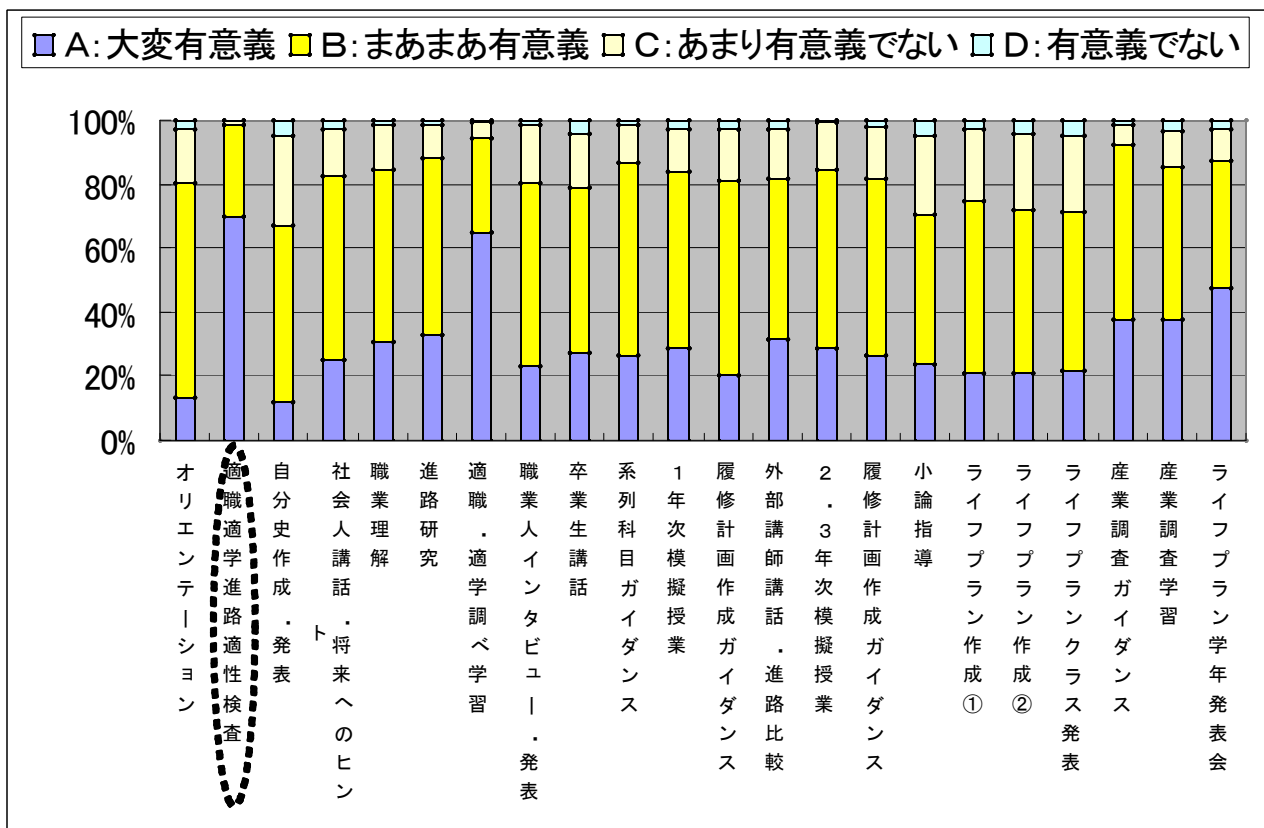
4 考察

平成16年度入学生（今春の卒業生・総合学科2回生）の「産業社会と人間」のアンケート（234名分）と生徒の進路希望の変化について考察してみた。

(1) 「産業社会と人間」アンケートの結果について

ア 調査方法 「産業社会と人間」の授業内容について、選択肢（大変有意義、まあまあ有意義、あまり有意義でない、有意義でないの四択）より一つを選択する方法で行った。

イ 調査結果



ウ 考察

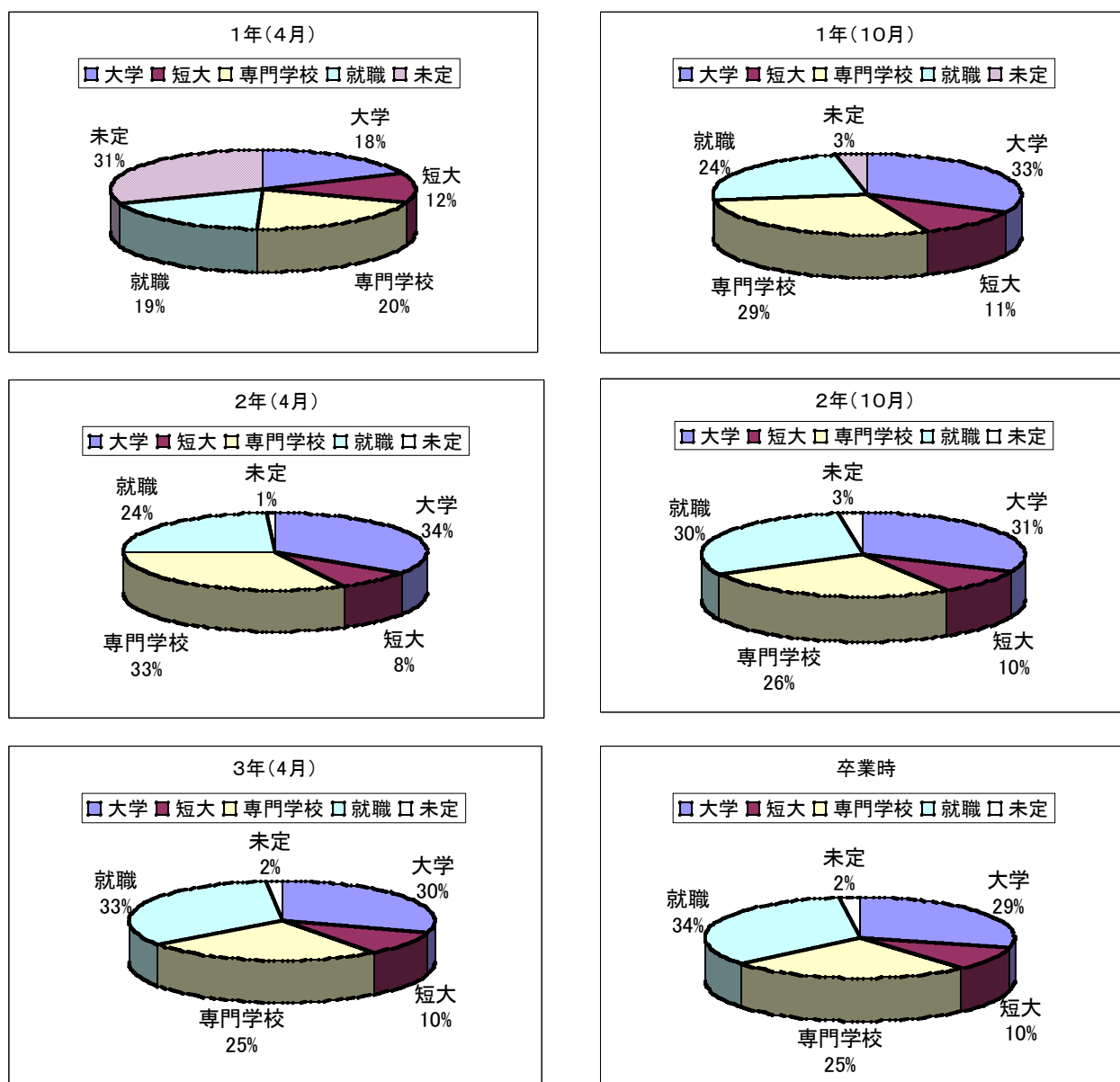
どの学習テーマについても7割から8割の生徒が、「大変有意義」又は「まあまあ有意義」と評価している。特に一番評価が高かったテーマは、適職適学進路適性検査にかかわる内容であり、約7割が「大変有意義」と評価し、「まあまあ有意義」を含めると実に9割以上であった。適性検査の診断結果を受けて、自己のパーソナリティー、職業希望、学問希望を自己分析し、今まで気付かなかった適性や可能性を知ることができた証^{あかし}であると思う。逆に評価が低かったテーマは、自分史作成・発表、小論文指導、ライフプラン作文作成などじっくり考えてまとめることや「書く」作業が中心になること、発表する内容等であった。しかし、評価が低いと言っても、6割以上の生徒は有意義と答えており、全体を通じて各々の学習テーマの趣旨をよく理解し、積極的に取り組んでいたことが分かる。

(2) 進路希望の変化について

本校では、進路希望調査を年に2回、4月と10月に定期的に行っている。平成16年度入学生の進路

希望が「産業社会と人間」の授業を受けて、どのような進路希望の変化があったのかを調べてみた。

ア 変化の様子



イ 考察

入学当初、進路未定で入学してきた生徒は、全体の31.6%（74名）であり、単純に3人に1人が進路希望未定で本校に入学していることになる。1年次の第2回目（10月）の進路希望調査では、進路未定であると回答した生徒は激減し、3.4%（8名）という結果であった。その時点での自分の進路の方向性を見いだせていることが分かる。推移を見ると、大学進学希望の割合が増え、専門学校、就職のそれぞれにほぼ同じような割合で進路希望が移動していることが分かる。しかし、将来について真剣に考えれば考えるほど悩みや不安は大きくなるもので、数は少ないが進路希望を明確に確定できない生徒や進路希望が流動的な生徒もいるのも事実である。2年次、3年次の進路希望については、多少の希望の変動はあるものの、大きな進路希望の変化はあまり見られなかった。「産業社会と人間」の授業を受けて進路の目標を設定する1年次の希望が2年次、3年次への進路希望につながっており、多くの生徒が学年進行でそれが確認されていく過程がよく分かる。

5 成果と課題

(1) 成果

学習指導要領の総則に、総合学科の特色として、次のように記載されている。

- ①将来の職業選択を視野に入れた自己の進路への自覚を深めさせる学習を重視すること。
- ②生徒の個性を生かした主体的な学習を通して、学ぶことの楽しさや成就感を体験させる学習を可能にすること。

この特色を生かす象徴となる科目が、正に「産業社会と人間」である。平成15年の総合学科立ち上げの際に、この「産業社会と人間」の授業をどのようなねらいをもって、どのように展開していくのか、会議を積み重ねた経緯がある。その中で、本校総合学科の目標である生徒の夢をはぐくみ、個性を育て、自分の可能性を拓くことのできる（自分でチャレンジできる）学校、また、その生徒にふさわしい、計画性のある内容として、「自己理解」「職業理解」「学問理解」「将来設計」というキーワードが生まれた。前述のとおり、時間ごとの指導案やワークシートは本校独自のものである。そのキーワードの下、単発的な計画や指導ではなく、1年間を通した計画性のある内容、指導であり、適職適学進路適性検査を柱に、進路目標を明確に定め、高校卒業後の将来設計までイメージさせるという点が特徴的なところである。

実際の授業での留意点としては、書くこと、聞くこと、発表すること、コミュニケーションを大切にすることを基本とし、生徒の自主性・積極性を重んじ、明るい雰囲気大切にしながら指導を行っているが挙げられる。前述の授業アンケートにもあるように、生徒はこれを有意義であると感じ、高い評価を与え、受け入れている。「産業社会と人間」のねらいの通り、生徒がこの授業に主体的に前向きに取り組むことで、自己理解を深め、周囲や仲間とのコミュニケーションの機会をもち、互いに協力し望ましい人間関係を築くことができている（自分史作成・発表、適職適学進路適性検査自己分析等）。また、進路や職業、学問等に関する情報収集や調査学習から自分の進路の方向性を見だし、必要な情報を選択し、活用する姿勢も身に付けている（職業人インタビュー・発表、外部講師・卒業生講話、職業理解、学問理解、進路研究等）。そして、目標とすべき進路や将来を考え、その実現のための進路計画を立て、自らにふさわしい選択や決定を自ら決断・実行することで、将来の目標とする職業の職業観や勤労観を育てることに役立っている（系列科目選択、履修計画作成、ライフプラン作成・発表等）。

生徒の学校生活の面においても、総合学科への改組以前は、1年生で部活動を辞めてしまう生徒が多かったが、現在は多くの生徒が部活動に参加しており、部活動は3年間継続して行うものであるという意識も芽生えつつあり、学校生活の一部として定着している面も見逃せない。さらに、学校行事においても、文化祭や体育祭に積極的に協力する生徒も増加しており、参加するのが当然であるという雰囲気ができつつあるようにも感じる。集団の中での自分の役割を理解し、前向きに行動し、実行していく力も身に付いてきている。これらの実態は、総合学科が目的としている特色にふさわしいものであり、かつ、キャリア教育の内容を体験的に高め、そして、深めていると言っても過言ではない。

(2) 課題

ア 授業準備に関わる課題

「産業社会と人間」の科目の特性上、事前にその授業におけるねらいや目標、時間配分など指導案に沿って、担当者で共通理解し、授業内容がぶれないように確認する必要がある。毎週火曜日に打合せ会議を行っている。当初はこの会議を週に2回行っていたこともあり、非常に労力が必要で、部活

動（顧問）への影響が心配された。最近でこそ、「産業社会と人間」を担当した先生方も多くなり、要領も得て会議の時間を短縮することができるようになった。しかし、できるだけ会議を少なく、効率よく打合せを行いたいが、初めて担当する先生方もいるので、担当者によって大幅に内容が異なったり、ねらいや目標がぶれないようにするための配慮は必要である。

イ 授業内容、評価にかかわる課題

「産業社会と人間」の授業に関して、毎年生徒のアンケートと反省及び担当者の反省を行っている。その反省を生かしつつ、ねらいや目標を明確にした内容を精選し、改良を加えて、生徒の実状に合った内容を盛り込んでいく必要性も感じている。また、評価については、現在のところ、時間ごとに提出するワークシートや報告書（課題）を含めた提出物、発表内容、そして授業に取り組む態度等を総合的に判断しているが、さらに、明確な評価規準づくりが必要である。

ウ その他の課題

生徒の実状に合った授業内容はもちろんのこと、現状を考えると、高校に入学した当初は、今後の学校生活の目標や進路目標を明確に設定できるように配慮していくことが必要である。さらに、科目選択の流れもあり、難しい側面もあるが、進路の方向性については、最低でも1年間かけてじっくりと考えさせて、納得して進路選択、科目選択をさせるべきで、結論付けを急ぐことは好ましくないと実感している。ただ、中には将来設計立案の際に、現実的でない計画を考える者も少なくない。現実との距離感を理解させ、生徒の進路希望をソフトランディングさせていくことの必要性も感じている。加えて、1年次の「産業社会と人間」で進路希望（夢）をはぐくみ、2年次、3年次の「総合的な学習の時間」へ引き継ぎ、関連付けて指導していくことも大切な観点であると思う。最後に、「産業社会と人間」の授業で、夢をはぐくみ、具体化させていく上で実現に向けての実践や各個人なりの努力目標を設定させ、一步一步着実に進んでいくことの大切さを実感させることも重要であり、それがキャリア教育の眼目でもあると考えている。また、キャリア教育に関する国及び県の指定事業を機に、キャリア教育のより一層の推進を図っていくことも大きな課題である。